



## 4集落が協力し、地域に合った「田舎暮らし体験」を模索

滋賀県の最北端に位置する上丹生、下丹生、菅並、摺墨の4集落からなる丹生地区は、豊富な水源と広大な森林を有する地域だ。先祖代々「山の木々は地域の財産」と教えられ、みんな山を守ってきた。しかし過疎高齢化の進行により山林を維持管理する人が減り、山の荒廃が進むとともに、炭焼きなどの技術を知る人が高齢化し、伝統文化の喪失も危惧されていた。そこで、なんとか伝統文化を継承しようと、平成17年度に地域の有志により「余呉炭焼倶楽部」が設立され、炭焼きの技術を知る古老の指導のもと炭焼活動を開始した。さらに4集落が協力して都市住民との交流等による地域活性化を図るため、本事業に取り組むこととなった。

### 話し合いから実践活動へ

事業ではまず、住民自身が地域の現状と課題を再確認し、今後の取組を検討するため「丹生地域まちあるき・まちづくり座談会」を開催した。30人の地域住民が4集



まちづくり座談会

落を巡り、地域の良いところ、悪いところを探す。その後「まちあるき」で感じたことをヒントに、まちづくりのアイデアや夢について意見を交換した。さらに具体的な取組を検討するため、①空き家、②耕作放棄地、③都市住民との交流の3つをテーマとするワークショップを開催。特に都市住民との交流については地域にあるものを活かした「自分たちでできる『おもてなし』」のアイデアを出し合った。

### 田舎暮らし体験で都市住民と交流

出し合った意見をもとに都市住民との交流イベント「田舎暮らし体験」を開催。参加した都市住民らは、集落散策や炭焼き体験、よもぎ餅やトチ餅作りといった丹生ならではの体験により、一泊二日の田舎暮らしを満喫した。また地元住民に



炭焼き体験

## 地域の声

【写真左から】丹生まちづくり協議会（委員長）轟 保幸さん・余呉炭焼倶楽部（会長）石橋萬次郎さん



- 事業に取り組むにあたり、反対はなかったものあまり人が集まらず苦労しました。
- 事業を通して集落間のつながりが強くなり、以前よりコミュニケーションが取りやすくなりました。

### 活動で工夫したこと

・ いざというときに協力が得られるよう、イベントに参加しない地元住民にもイベントの開催を周知した。

### 地域活性化のキーポイント

・ 地元の負担にならないよう、無理なく活動できる範囲を見極める。  
・ 最低でも2人は活動の旗振り役が必要。他団体との連携も大事。

### 今後の展望

・ 丹生まちづくり協議会を主体に、地域に合った活動を進めたい。

活動組織問い合わせ先  
余呉炭焼倶楽部（担当）石橋萬次郎  
☎ 090-3262-5279

Memo	
上丹生（かみにゅう）	【戸数】107戸
	【人口】317人
	【高齢化率】37.9%
下丹生（しもにゅう）	【戸数】33戸
	【人口】111人
	【高齢化率】36.0%
菅並（すがなみ）	【戸数】36戸
	【人口】66人
	【高齢化率】68.2%
摺墨（するすみ）	【戸数】9戸
	【人口】26人
	【高齢化率】57.7%

出典：H22 国勢調査

## 事業で取り組んだ活動

- ✓ **丹生地域まちあるき・まちづくり座談会**  
…地域住民が4集落を巡り、地域の「良いところ」、「悪いところ」を探し、見えてきた地域の現状を踏まえ、まちづくりのアイデアや夢について意見交換を行った。
- ✓ **ワークショップ**  
…①空き家、②耕作放棄地、③都市住民との交流をテーマにしたワークショップを開催。具体的な活動の企画と人材の発掘を図った。
- ✓ **田舎暮らし体験**  
…都市住民との交流イベント「田舎暮らし体験」を開催。一泊二日で都市住民を招き、炭焼き体験、トチ餅作り、集落散策、都市住民と地元住民の意見交換会等を実施した。

### 地域に合った取組を模索

事業を通して、4集落のつながりが以前より強くなり、コミュニケーションを取りやすくなったという。また、イベント自体が地域で認識されつつある。

現在は4集落で「丹生まちづくり協議会」を立ち上げ、月に一度イベントなどの打合せを行っている。事業終了後も年に一回田舎暮らし体験を開催しているが、「ずっと同じところでは面白くない」と、順次開催する集落を変えようと計画 중이다。

田舎暮らし体験は様々な効果が見られたが、その一方で反省点もある。「もてなし過ぎた」ため、地元の負担が大きかった。無理を



地域住民と都市住民の交流

としては、「都市住民のニーズ」や「都市住民から見た丹生の魅力」を直に聞くことができる貴重な機会となった。

して地元が疲れると活動は続かない。また活動している内、つつい「目的」を忘れてがちになるとい

田舎暮らし体験の目的は「人を集めること」ではなく、「地域の過疎高齢化に歯止めをかけること」。田舎暮らし体験は都市住民が定住してくれるための「きっかけづくり」なのだ。このように、話し合

だけでなく実践してみてもいい。反省点を次の取組に活かしつつ、地域に合った活性化活動を模索中だ。

### 【長浜市職員のコメント】

農村地域再生支援事業により長浜市丹生地区（4集落）が「田舎暮らし体験」を始めとする活動に平成21年度からスタートされ、現在に至っております。補助事業終了後も地元では「丹生まちづくり協議会」が立ち上げをされたことにより、毎年「田舎暮らし体験」を開催され、今後も当初の目的に向かって頑張っていたきたいです。

《問い合わせ先》 長浜市北部振興局産業振興課 ☎ 0749-82-5902

# 多賀町八重練地区



都市住民から教えられた集落の良いところ

## 【平成22年度】 農村地域再生支援事業

多賀町は、東部に連なる鈴鹿山系の峰々を源とする荒川・犬上川の清流が耕地を潤す林野率85%の山村地域で、全域が特定農山村地域<sup>※</sup>に指定されている。八重練地区は多賀町北西部の山麓にあり、荒川上流の南岸に位置する農業集落である。

名神高速彦根インターやJＲ彦根駅まで車で10〜15分と交通の便は良いが、人口等の推移を見ると、この35年間で世帯数が約2割減少し、人口も2/3に減少している。集落内の家屋40棟のうち、9棟が空き家状態で、防災・防犯の面からも空き民家の活用が集落の課題となっており、本事業に取り組みこととなった。

### ■取り組みの始まりは絶妙のタイミング

八重練での農村地域再生に向けた取り組みは、絶妙のタイミングで始まった。

集落の寄り合いには、何年も同じ顔ぶれが集まり、入ってくる後輩より亡くなる先輩の数が多し、漠然とした不安が芽生えていた。またある人は、子供の数が少ないことに危機感を覚え、増加する空き民家の防災・防犯に頭を悩ませていた。

そんな中、町から集落に対して、「県が支援する空き民家の活用方法を検討する事業を実施してみないか」との話があり、公民館長等の後押しを受けた当時の区長が強力なリーダーシップを発揮して取り組みことになった。

(当時の区長大森隆雄氏談「何をどうしたら良いのか全くわからなかったが、役員の後押しを受けて無鉄砲に取り組んだ。集落全体で将来のことを考える場をもって、本当に良かったと思う。」)

### ■普段着の田舎暮らし体験

空き民家の活用につながる取り組みのひとつとして、都市住民を対象にした1泊2日の田舎暮らし体験を開催した。交流イベントの開催にあたっては、住民みんなに関わってもらおうよう働きかけ、特に女性は大変だったが、みんな積極的に取り組みながら楽しんでいった。

また、参加した都



そば打ち体験

## 地域の声

【写真左から】(H22区長) 大森隆雄さん・(H23区長) 吉田久治郎さん・(公民館長) 中西茂行さん・(H22会計) 吉田光浩さん



- 集落に活気はあるものの、何をしても同じ顔ぶれ。周りを見ると子どもの数が少なくなっている。そんな状態が何年も続き危機感を覚えました。
- 本事業での取組は、集落の将来を考える場を持つという意味では大変良かったと思います。

### ◆活動で工夫したこと

- ・ イベントの開催にあたって、住民みんなに関わってもらえるよう取り組んだ。

### ◆地域活性化のキーポイント

- ・ 熱意をもって継続的に取り組める人材がいること。

### ◆今後の展望

- ・ 町、県、国の様々な支援策の中から、八重練に最も有効な施策を活用しながら空き家の有効活用、移住の受け入れを進めたい。

## 事業で取り組んだ活動

- ✓ **地域現況調査**  
…住宅、空き家、地域資源について調査し、空き家所有者及び集落住民に、空き家の意向調査を実施。
- ✓ **意見交換会(住民話し合い)**  
…空き家や地域資源の活用方法について住民同士で意見交換。
- ✓ **都市農村交流活動「普段着の田舎暮らし体験」**  
…田舎暮らしに関心のある都市住民を1泊2日で八重練に招く、都市農村交流イベントを開催。  
＜プログラム＞  
【1日目】山歩き、集落散策、夕食兼意見交換会  
【2日目】朝の散歩と空き家見学、ワークショップ(八重練で体験したいプログラムについて都市住民と地元住民が意見交換)、そば打ち体験

市住民との意見交換会や交流会を通じて、本気で空き家を借りたいと考えている方が何人かいることに驚き、「きれいな水ですね」「真つ赤な夕焼けに「見事な景色が見られて幸せですね」と言われて身近な自然の素晴らしさに気づくことができたといい。

住んでいると悪いところばかり目につくが、参加した都市住民のほとんどがアンケートで「住んでみたい」と回答され、「わが集落もまだまだ捨てたものじゃない」ということを、都市住民から教わった。



ワークショップ



集落散策(祭りに使われる太鼓)

■**空き民家活用への道**

都市住民との交流イベントは、支援を受けた1回きりの開催で終わっているが、集落にとつ

ては決して無駄ではなかった。住民の中には集落の将来に対する思いがしっかりと根付いており、新たな取り組みに向けての準備は整っている。次の一歩を踏み出すには、熱意を持ってとぎれることなく引つ張ってくれる人材が必要だが、町・県・国の様々な支援策の中から、八重練に最も有効な施策をいかにコーディネートして取り組みにつなげるかが現在の課題となっている。

### 【多賀町職員のコメント】

この事業による「普段着の田舎暮らし体験」では、交流プログラムの内容の検討や準備など、八重練区一丸となって取り組んでいただきました。集落の方が、都市住民の方との交流を通じて八重練区が持つ地域の魅力を再発見していただき、また地域への愛着も感じていただけたかと思えます。若者の流出、空き家の増加など、地域が抱える問題は数多くあります。ただ、今回の事業によって八重練区にとって将来に向けた地域づくりを進めていくにあたり、町も含めて大変有意義な経験をさせていただいたと感じております。

＜問い合わせ先＞ 多賀町産業環境課 ☎ 0749-48-8117

Memo
八重練(やえねり)
【戸数】32戸
【人口】114人
【高齢化率】29.8%

※特定農山村地域…地勢等の地理的条件が悪く、農業の生産条件が不利な地域であり、かつ、土地利用の状況、農林業従事者数等からみて農林業が重要な事業である地域として、政令で定める要件に該当する区域。